



JCHO 仙台南病院

令和7年7月発行

登録医ニュース



絆

きずな



登録医療機関 (令和7年6月現在)

174 施設 200 名の先生方にご登録いただいております。



7月号 広報誌 掲載内容

- 特集：内科からのお知らせ（血液疾患のおはなし）
- 診療科のご案内
- レスパイト入院について



内科からのお知らせ

当院内科の中心は消化器内科と糖尿病内科ですが、一部の血液疾患も診療しておりますので、骨髄異形成症候群を例にご紹介させていただきます。



内科 医師 田母神 宏之 (たもがみ ひろゆき)

(はじめに)

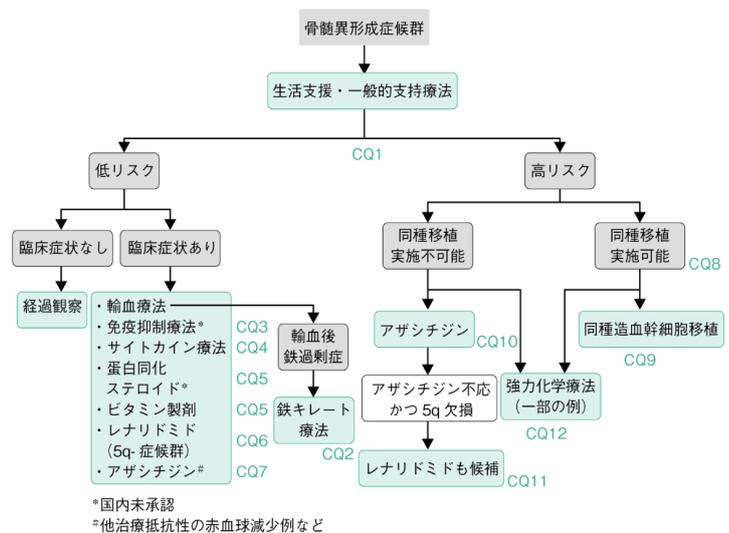
骨髄異形成症候群 (MDS: myelodysplastic syndromes) は、1系統以上の持続的な血球減少として発症します。加齢に伴う造血幹細胞へのゲノム変異蓄積により生じるクローン性造血が発生起源で、背景にある遺伝子変異の種類により、長期間にわたり比較的緩徐な血球減少の経過をたどることもあれば、急速に白血病に移行することもあります。死因は、血球減少による感染症や白血病化が多いです。白血病化した場合の通常の化学療法の反応は不良で難治性です。

(MDSの診断とリスク分類)

診断は、慢性の血球減少を呈し反応性の形態異常を来たしうる疾患を鑑別しながら、血球減少と造血細胞の異形成、芽球割合、染色体異常などによって行います。

上述したように経過が多彩なので、初診時から予後を的確に予測し、リスクに応じた治療方針を立てることが重要です。血球減少、骨髄芽球比率、染色体異常の様式などの因子を用いた改訂国際予後スコアリングシステム (IPSS-R) を用いてリスク分類します。併存疾患や年齢など患者背景も考慮して治療方針を決めます。右に治療アルゴリズムを造血器腫瘍ガイドライン 2024 年版からそのまま示しました。

ちなみに、海外では IPSS-R に遺伝子異常プロファイルを加味した分子国際予後スコアリングシステム (IPSS-M) も用いられるようですが、日本では今年になり造血器腫瘍領域でも遺伝子パネル検査が保険適応になったことで、今後、日本でも IPSS-M が普及しそうです。



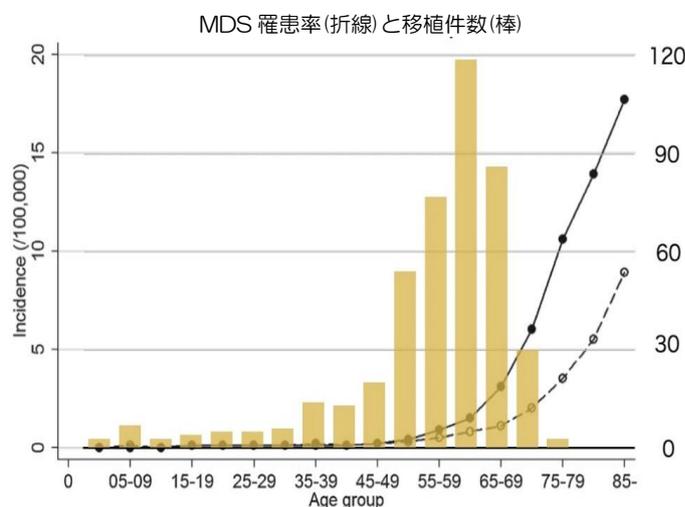
(MDSの治療)

低リスク群で無症状なら経過観察、症状があれば血球減少への対症療法が中心で、QOLの向上を図ります。高リスク群では白血病化の抑制・生存期間の延長を目指します。この高リスク群では治癒を目指す同種造血幹細胞移植が第一選択ですが適応できるのは一部で、移植非適応の高リスク症例にはアザシチジンが広く用いられます。

(MDS の診療状況)

参考に年齢別の MDS 罹患率のグラフ (Chihara D, et al. JEpidemiol. 2014) に MDS に対する初回移植件数 (出典は日本造血細胞移植データセンターで公表している 2023 年分の年齢階級別・疾患別移植件数) を少し強引ですが重ねてみました。(左縦軸が罹患率で、●男性、○女性。右縦軸が移植件数。著者作成)。なお、グラフ横軸の年齢幅が 65-69 になっているからか (最近は関わらなくなった自分的には) すれを感じましたが、おそらく多くの施設で移植年齢の上限は 65 才位だと思えます。そしてこの移植適応の年齢を過ぎたところで、特に 70 歳以上で、急激に患者数は増加します。

当院の場合、MDS の患者さんは、だいたい 80 代以上のこの移植非適応の層の方々です。輸血を中心とした対応が多いです。若い方で MDS 疑いのある場合は、低リスク MDS という分類でも経過中に高リスクに変わることがあるので、ほかの医療機関に紹介させていただいております。



(当院の血液疾患診療)

2017 年からでてきた多発性骨髄腫の治療薬の抗 CD38 抗体製剤はいまや 1st line で使用されますが、当院ではそれを使える体制がないことから以前は治療していた多発性骨髄腫をほぼ診なくなりました。2019 年にはキメラ抗原受容体発現 T 細胞輸注療法 (CAR-T 細胞療法) が認可されました。腫瘍抗原に対する受容体を T 細胞に遺伝子操作で発現させてその T 細胞に直接腫瘍を認識させる、自己の免疫力を強化させた細胞療法で、これまでの治療法が大きく変わってきています。そして、今年 2025 年には先ほど示した遺伝子パネル検査 (診断だけでなく、予後予測・治療法選択に高い有用性がある) が保険適応になりました。遺伝子パネル検査では今回例に挙げた MDS においては初診時に検査することが強く推奨されている一方で、一部の医療機関でしか検査できません。しかしながら、その検査をしなくても治療手段が限られてくる高齢の MDS の治療には結果的あまり影響はないように思われます (このような医療技術が進む中でますます肩身の狭い思いをしてきているところではあります)。

そのほか現在診療中のものには、免疫性血小板減少症 (特発性血小板減少性紫斑病) や赤芽球ろう、再生不良性貧血などの良性疾患や、骨髄増殖性腫瘍や一部の悪性疾患があります。また凝固異常については後天性血友病の治療実績があります。これらの患者さん達の当院受診のきっかけは、若い方は健診異常で受診して主に骨髄増殖性腫瘍の診断でそのまま継続診療になることが多く、高齢の方は先生方からのご紹介でさまざまな疾患が含まれることが多いです。

患者さんの状態・年齢や疾患によっては血液領域に特有の体制を備えていない当院でも対応できる場合もあり、特に、治療手段に限りがでてくる高齢の患者さんの場合は、必ずしも高次機能病院でなくても済むこともあるかもしれません。当院においては特に高齢患者さんの受け皿として機能を果たしていきたいと思っておりますので、気軽にご相談いただくと幸いです。これからも何卒よろしくお願い申し上げます。



要Check! 診療科のご案内

※全ての診療科 午前診療

内科・循環器科・外科

曜日：月～金 新患受付 11:00 まで

上記以外、緊急の場合は地域医療連携室へご連絡・ご相談ください

呼吸器内科（非常勤医師）

曜日：金 新患受付 9:30 まで

受診予約のご相談は地域医療連携室へ診療情報提供書のFAXをお願いします

泌尿器科

曜日：月・水・木・金

※水曜日:手術日・木曜日:制限あり

上記以外、緊急の場合は地域医療連携室へご連絡・ご相談ください

整形外科（要ご相談）

曜日：月・火・水・金

受診予約のご相談は地域医療連携室へ診療情報提供書のFAXをお願いします



レスパイト入院について



お気軽にご相談ください

当院は、在宅で療養生活を送っている患者さんや、ご家族を支援させていただく為、レスパイト入院の受入を行っています。介護している家族が急病で困ったなど、急なご利用にも対応可能ですので、ご連絡下さい。

ご利用手順（申込書は当院ホームページよりダウンロード可能）

1. レスパイト入院のご相談

かかりつけの先生もしくは訪問看護ステーション、担当ケアマネジャー、地域包括支援センターより地域医療連携室へ TEL：022-306-1740

2. 「レスパイト入院申込書」を記載し、診療情報提供書と一緒に地域医療連携室へ FAX：022-306-1741

3. 日程調整後、当院担当者よりお返事いたします。

先生方のお休み期間など、どうぞご利用ください



発行 独立行政法人 地域医療機能推進機構 仙台南病院

仙台市太白区中田町字前沖 143 番 代表TEL 022-306-1711・FAX 022-306-1712

地域医療連携室 直通TEL 022-306-1740・FAX 022-306-1741